

刈谷市議会議員 伊藤よしえによる刈谷の未来づくり提案誌

ORANGE PRESS

オレンジプレス Vol.9
2025年9月議会号



令和7年9月議会 常任委員会質問

刈谷駅を魅力的なエリアにしようじゃないか

ワクワク！駅前空間に新施設オープン

駅北エリアはどう変わる？

市議の日常、ヒトコマ

ワクワク！

駅前空間に新施設オープン

商工業振興にも活かすべし

主にイベント情報の発信だけではもったいないと考え、市に対して、地元企業の商品やサービスを紹介することで、魅力をPRするといった仕掛けも提案しました。

カリココプラスは、刈谷駅北口と直結しているマンションの2階に入居をしている、カリココ（刈谷駅北地区地域交流施設）の付帯施設であり、今年の十二月にJR刈谷駅改札付近に開設されます。カリココは、令和三年九月に開設された施設であり、利用者の満足度は高評価を持続しています。市はイベント等の情報発信に対する満足度が低いことを踏まえ、新設するカリココプラスに様々な情報発信ツールを設置し、イベントや市政情報等の発信を積極的に行っていきたいとしています。

刈谷市の魅力発信の一翼を担う施設としての期待が高まります。具体的にはどのような場所になるのでしょうか。スペースとしてはさほど広くはないのですが、七名程度が座れるベンチが設置されており、待ち合わせなどのちょっとした時間に気軽に入室してもらい、市の情報に触れてもらう、というような使い方を想定しているとのこと。情報発信ツールとして、QRコードを映し出すキューブ上のディスプレイが設置される点も、刈谷らしい施策だと考えます。



右上／カリココの内観。学生が勉強をしている姿をよく見かけます。

滞在スペースは無料、滞在ラウンジは有料ですが、打ち合わせなどを行うこともできます。ポップアップストアが出店していることもあります！

右／カリココプラスのイメージ図を作成しました。実際の内装はまだ分かりませんが…たくさんの方が立ち寄ってくれることを期待しています。



刈谷駅の新名所になるか

刈谷駅の南北通路を一日に何人くらいが通行しているか、ご存じでしょうか。その数なんと、二万人超。地方都市としては異例とも言える通行者数ですが、駅前空間がイケているかと言ふと、私の感覚としては、もう少し頑張りたいところです。しかし、最近ではマルシェなどのイベントも開催され、少しずつにぎわいが増してきています。そんな刈谷駅に、情報発信拠点の機能を持つ、『カリココプラス』がオープンすることになりましたので、どのような施設なのかを委員会質疑にて問いました。

市からは、希望する事業者などが情報を発信できるような仕組みも取り入れる、との答弁を得到了きました。にぎわいの創出だけでなく、産業の魅力向上や人材確保に悩む市内事業者さまへのサポートなどにつながるような施策についても、引き続き提案して参ります。

駅北エリアはどう変わる？

JR刈谷駅、より安全で便利に

JR刈谷駅および、北口エリアの開発・整備が着々と進んでいます。直近では改札やキオスク、駅舎の場所などが変わりましたし、下りホームの拡張により、ずいぶんと利便性や安全性が増したと感じます。駅整備の完成は、令和十一年度を予定しています。駅の南北通路と桜町交差点にかけての歩行者デッキの整備も進めているところです。

今後刈谷駅を中心とした通勤者や来訪者などの人の流れがより良い方向へ変化し、にぎわいを生むチャンスになると考え、駅北エリアの開発・整備について取り上げました。

あなたの考える理想のまちの風景は？

刈谷市の玄関口である刈谷駅北エリアのまちづくりについて、市はどうのうな考え方を持っているのでしょうか。基本的な整備方針は『刈谷市中心市街地まちづくり基本計画』に定められており、現在改定作業が行われています。

今年度は、現状の把握や課題の整理を行なうとともに、市民を対象に、刈谷駅から刈谷市駅周辺のまちづくりに関するアンケートが実施されるそうです。また、刈谷駅周辺について、未来ビジョンの策定も予定しているとのことでした。読者の皆様には是非、それぞれの「刈谷駅周辺がこうなつたらいいな」という思いを届けていただきたいと思います。

私は市議会議員になつて以来、まちづくりに関するビジョンの必要性や、にぎわい施策との接続について取り上げてきました。今回の質疑では、「刈谷駅北口エリアは、利用者にこんな価値を届ける場所なんだ」「あそこに行けば〇〇が叶うんだ」といったメッセージが、事業者や市民、刈谷駅利用者に理解され、ビジョンに即したまちづくりをみんなで行っていくという理想の姿の実現に向け、皆さんの声を聴き、計画に反映しながら、取り組みを推進することを要望しました。

駅北エリアの新たな顔に期待

JR刈谷駅の駅ビル構想や工場跡地（北口東エリア）の土地利用の転換などにも、大いに期待を寄せてています。市としてまちづくりを進めるにあたり、民間開発とのような関わりを持つて行くのでしょうか。

北口周辺の土地開発については、現在JR東海と市で定期的な勉強会を開いており、駅前広場や駐車場、駐輪場などの公共施設の再配置や駅前ににぎわいに必要な機能として、駅ビルなどの再開発を含め、今後の土地利用について意見交換を行つているとのことでした。

刈谷駅を、通勤・通学・夜の街、以外でも活気ある駅にしようとすると、核となる「箱」や「コンテンツ」が必要だと考えます。実は、まちづくりのワークショップに参加した際、若い世代の方々から「刈谷駅はおじさんとおばさんの集まる場所」という意見をちようだいし、駅前をよく訪れるおばさんの一人である私はハッとさせられました。

刈谷駅周辺が、多様な方が集い、交流し、楽しむことができる、ホットな場所のひとつとなるよう、互いにアイデアを出し合い、実りある勉強会としていただきことを要望し、質疑を終えました。

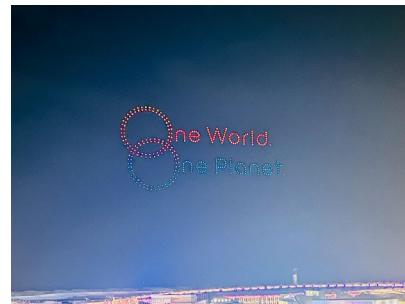
なお、工場跡地の土地利用については、市から地権者に確認したところ、まだ決まっていないということでした。地権者や市民、地元事業者など多くの方にとつて有益な土地利用ができるよう、動向を注視して参ります。



市議の日常、レポート



上／リニューアルしたデンソーミュージアム。稻垣市長、鈴木副市長、近藤副市長、金原教育長が訪問してくださいました。子どもも大人も楽しめるコンテンツが盛りだくさんですので、是非お越しください。
右／すべり込みセーフで訪れた大阪万博のドローンショー。たくさんの人で盛り上がっていました。



上／7月に施行された参議院議員選挙。国民民主党のいそざき哲史さんと、水野こういちさんの街頭演説@名古屋駅にて、マイクを握らせていただきました。仲間の議員として連携し、皆様から届けていただいた声の実現に向けて尽力して参ります。

下／トヨタグループ出身の議員で組織している会派「市民クラブ」から、稻垣市長に対し、令和8年度の予算に関する要望書を提出しました。
産業の持続的発展や子育て教育施策、環境問題対策、誰もが安心して移動できるモビリティ社会の実現、防犯・防災や、まちのにぎわいなど、幅広い分野での施策について要望しています。



[おしらせ]
ORANGE PRESS は、年間4回発行します。
日々の活動はSNSでも発信しています。
是非フォローをお願いします！DMにてご相談も賜ります。

Facebook



X

